

令和4年度 事業報告書

〔 自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日 〕

令和4年度は、新型コロナウイルス感染の波が繰り返され、収束までにはさらに大規模な感染拡大が生ずることも懸念されたが、新たな行動制限を行わず、コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立をより強固なものとしたWith コロナに向けた新たな段階に移行し始めた。このような状況の中、昨年度に引き続き感染症予防対策を十分に行い通常通りの営業に努めた。

まず、今年度の新たな施策として、ライセンス更新料金の自動引き落としサービスを開始した。昨年度より開始したりモート講習会は、開催数を増やしライセンス取得希望者の利便性を諮った。ライセンス会員の新規取得者は昨年度より減少したものの、年度末の会員数は昨年度を上回った。

当財団主催レースに関しては、入場規制等は行わず通常通り開催したことにより、参加台数および観客数ともに増加した。また、周辺各自治体の後援を取り付けると共に、各自治体の認知度向上のため農作物や名産品の販売を行った。年度末に試験的に行ったユーチューブ配信は、視聴者数約2万人を超え好評を得られたので、今後は恒久的に展開していきたい。

筑波サーキットは、開場以来50年以上が経過し、諸施設の経年劣化が見受けられるが、お客様により良い環境でご利用いただけるよう観客席、トイレなどの改修工事を行った。

なお、今年度の売上額は昨年度より約900万円下回ったが、昨年度JKA補助事業による受取補助金が2,200万円であったことから、実質プラスであった。

各実施事業内容は以下のとおりである。

1. 公益目的支出計画に関する事業

(1) オートスポーツ愛好者に筑波サーキットの走行を提供する事業

多くのオートスポーツ愛好者に筑波サーキットでの走行を楽しんでいただくことにより、オートスポーツの普及を図るため次の事業を行った。

① ライセンス講習会の開催

新たに筑波ライセンスの取得を希望する者に対し、ライセンス講習会を48回開催

し、受講修了者に筑波サーキットライセンスを交付した。

ライセンス交付者の内訳は、4輪623名（対前年度比10.1%減）、2輪556名（対前年度比12.7%減）であった。

なお、前年度より開始したリモートによるライセンス講習会を12回実施し、97名の参加があった。

② 筑波ライセンス会員の管理

筑波ライセンス会員等の更新や退会手続き、新規会員の入会手続き等会員に関する全般の対応および管理を行った。

なお、令和4年度末におけるライセンス所持者は、以下のとおり。

a. コース2000 (単位：人)

種 別	2 輪 車	4 輪 車	計
筑波ライセンス会員	2,511 (2.1%増)	1,756 (5.3%増)	4,267 (3.4%増)
ファミリー限定ライセンス会員	1,254 (1.9%減)	2,349 (2.3%増)	3,603 (0.8%増)
合 計	3,765 (0.7%増)	4,105 (3.6%増)	7,870 (2.2%増)

b. コース1000 (単位：人)

ミニバイクライセンス会員	2 輪 車 (ミニバイクのみ)	535 (0.9%減)
--------------	-----------------	-------------

() の%は対前年度比

③ 筑波ライセンス会員の走行の実施

筑波サーキットコース2000およびコース1000において、筑波ライセンス会員のスポーツ走行を行った。

(単位：台)

コース別	2 輪 車	4 輪 車
コース2000	26,955 (4.4%減)	11,651 (4.7%減)
コース1000	6,783 (2.0%減)	4,294 (8.0%減)

(2) オートスポーツ大会の開催事業

サーキット走行の理論および日頃の研鑽結果を発揮する場として2輪競技大会を開催するとともに、大会開催の告知をオートスポーツ愛好者等に広く行った。

大会の参加台数は1,733台(対前年度比1.2%増)、観客入場者数は31,550人(対前年度比154.6%増)であった。

- ① 全日本ロードレース選手権 1戦2日間
(筑波マイスタートロフィー併催)
- ② 筑波ロードレース選手権 3戦3日間
- ③ 筑波ツーリスト・トロフィー 4戦4日間
- ④ テイスト・オブ・ツクバ 2戦4日間
- ⑤ 筑波耐久ロードレース 耐久茶屋 1戦1日間

全日本ロードレース選手権は、今年度より開催クラスが減じることとなったため、

新たに筑波サーキットにマッチしたクラスを独自に考案し、筑波マイスタータートロフィーを創設し併催開催として実施した。開催に際しては、下妻市をはじめとした8つの近隣自治体の後援を頂きました。

今年度の開催に際しても、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底することにより、各大会を無事に開催することができた。

(3) オートスポーツの普及に関する広報事業

オートスポーツの面白さ、楽しさ及び筑波サーキットを多くの人々に紹介するための広報活動を行った。

① インターネットのホームページ

筑波サーキットの公式サイト（ホームページ）により、施設案内、レース及びイベントの開催情報、ライセンス会員募集案内、会員走行案内、コース貸切情報、動画配信、筑波サーキットの天気や路面状況などをWEBカメラによりリアルタイムに伝えるなど多くの情報を迅速かつ適切に提供を行った。

また、3月に開催した筑波選手権で、ユーチューブによるライブ配信を行い迫力あるレースシーンを多くのファンに提供した。視聴者は、2万人を超え好評であった。

さらに、ツイッターやフェイスブックによる情報提供などによりサービスの向上並びにオートスポーツの普及に努めた。

② 筑波ライセンス会員等への情報提供

スポーツ走行、ファミリー走行のスケジュール情報を随時更新するとともに、年間レースカレンダーを発行した。また、会員特典として主なレース観戦の優待割引を実施した。

また、道の駅「しもつま」と提携し、道の駅の人気商品が筑波ライセンスカードを呈示することにより割引を受けられるサービスを開始した。

③ 東京モーターサイクルショーでの広報活動

東京モーターサイクルショーは、令和5年3月24日～26日までの3日間、東京ビックサイトで開催された。来場者は3日間で約139,000人（前年比112.7%）であった。

本財団も日本モーターサイクルスポーツ協会（MFJ）と合同で専用ブースを設け、筑波サーキットのPRを行った。専用ブースでは、主催レースを大型映像で紹介し、競技車両の展示を行うとともに、ブース来場者に、モーターサイクルショー限定ステッカーの配布などを行った。

(4) オートスポーツの安全思想啓発のための各種スクールの実施及び安全走行のための指導事業

オートスポーツを多くの人に安心して楽しんでいただくために、サーキット走行の安全指導のためのスクールを開催した。

① 親子ミニバイク教室

オートバイの楽しさ面白さを体験しながら親子のコミュニケーションを図るために小学生とその親を対象とした「親子ミニバイク教室」を開催した。

開催内容は、初心者からステップアップできるよう、各自の技量によりクラス分けを行い、安全かつ楽しくバイクになじむとともに、技量の向上を目指した。参加者の多くに積極的にバイクに向きあう姿勢が見受けられ、多くの参加者に満足していただき、好評であった。開催回数7回（参加者72名）

② サーキットアドバイザーによる指導

2輪車のサーキット走行初心者である「ファミリー走行ビギナークラス」において、2輪車のロードレース大会での豊富な経験を有するサーキットアドバイザーにより、走行マナー、ルール、マシン点検などの説明を事前に行うとともに、実際の走行時には適宜並走を行うなど状況に応じたアドバイスをを行い安全走行の啓発に努めた。

また、4輪の初心者を対象にしたアドバイザー制度も設け、2輪同様にアドバイスをを行い安全走行の啓発に努めた。

③ 体験走行会

サーキットへより一層の親近感を持ってもらうことを主眼に、自分の車両でサーキットを走行できる体験走行会を主催レース開催時に7回およびスポーツ走行開催日に9回実施した。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加は事前申込みとし、各回定員制限を行い実施した。

参加実績は、主催レース開催時、4輪64台（前年度61台）、2輪46台（前年度76台）。スポーツ走行開催日、4輪車91台（前年度94台）、2輪車83台（前年度94台）であった。

④ 4輪ドライビングスクールの開催

サーキット走行未経験者から本格的にサーキット走行を楽しみたい方を対象とし、プロのインストラクターによる指導・アドバイスをを行いモータースポーツの楽しさを実感して頂ける「TOYOTA GAZOO Racing Driving experience」をトヨタ自動車（株）と連携し開催した。参加者は110名（前年度60名）であった。

2. その他の実施事業

(1) 施設の貸出に関する事業

① コース2000及びコース1000

従来と同様にロードレース大会、走行会、試乗会、テスト走行、高速運転訓練等のために貸出した。貸出時間数はコース2000 955時間（対前年度比1.8%減）、コース1000 1,517時間（対前年度比16.5%増）であった。

② ジムカーナ場

ジムカーナ愛好者による競技大会、練習会等のため貸出した。貸出時間数は2,455時間（対前年度比0.4%増）であった。

③ 500m競走路、整備工場及び宿泊棟の敷地

公益財団法人JKAに賃貸した。

④ 体育館

公益財団法人JKA及び周辺住民のスポーツ活動や文化活動のために貸出した。

(2) 施設の整備に関する事業

① コース2000観戦スタンド改修工事

コース2000のBパドック内ダンロップスタンド及び芝生席スタンドは、設置後の経年劣化のため、床面・手すり・ベンチシートなどに老朽化が進んできた。

そのためお客様が安全に観戦して頂けるよう、それぞれのスタンドの大規模な改修工事を実施し、リニューアルした。

② コース2000トイレの改修

コース2000のトイレを順次改修を行っている。今年度はBパドック内と最終コーナー外側のトイレの全面改修を行った。

③ 車両の購入

走路清掃・整備に用いる散水車及びスイパーが購入して以来年数が経過し、性能劣化が見られるため、新たに購入した。

また、事故等の緊急車両としての救急車も設備が充実した新車両を購入した。

④ 調整池護岸工事

サーキットでは雨水の排水管理のため各所に調整池を設けているが、コース2000バックストレートと芝生の間にある調整池の護岸壁に劣化が見られたため、修繕工事を行った。

⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策

お客様が安心してご来場できるように感染予防の対策を引き続き行った。

- ・室内換気のための換気扇の増設
- ・ドライバーズサロンにアクリル板の設置
- ・消毒液の設置

⑥ その他

ゴミ箱の新設、場内の緑化及び植栽保持並びにサーキット内の美化清掃に努めた。

附 属 明 細 書

特に記載すべき重要な事項はありません。